

**海禅寺新聞 第16号**

12月8日はお釈迦さまがお悟りを開いたことを祝う「成道会」(ジョウドウエ)でした。当日は海禅寺に隣接する芙蓉保育園の子どもたちが本堂にやってきて、住職の読経の音が響く中、心静かに手を合わせました。そして毎年、子どもたちと共に「幸せ」とは何かを考えます。さて、皆さんは「幸せ」をどう説明しますか？子どもたちにもんな時が幸せかと問いかけると、家族と揃ってご飯を食べること、父母とお風呂に入ること、兄弟姉妹と仲良く遊ぶことなど、日常生活の一見平凡なあれこれを幸せだと話してくれる人がとても多くいます。私たち大人はともすると、この日常を離れたどこかに幸せの何かを求めて、そうでない今を不幸せなことのようによく考えてしまいがちですが、実は真の幸せは、こうして日常の中に溢れている当たり前の光景にあるのかもしれない。そして正に仏教は、そうしたことを追求する目的で生まれたものです。年末年始はご家族やご親戚と過ごす時間が、普段より多くある時期です。どうぞそうした話題を通じて、お互いのかげがえのなさを確認し合えるような一時にしていただければ幸いです。



**生きる力 vol.91 送付**

今回の特集は『供養の心ではじまる一年』です。ここでは、真言宗におけるご法事の意味が、分かりやすく書かれています。またご法事と関わりが深い十三仏について、詳細な説明があります。ちなみに海禅寺ではお檀家さんがお亡くなりになると、十三仏が描かれた「送り布」をお体におかけして、お通夜からお勤めをしています。この特集をご一読いただくことで、そうした意義のご理解も深まるかと思えます。年末年始の一時、どうぞお読みください。

**初祈願お申込みを送付**

新春恒例となっており、初祈願大護摩祈禱札のお申込みを同封いたしました。海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王の御前で勤めるお護摩にてご祈禱し、お加持をした護摩札をお授けいたします。当山の不動堂ご本尊である不動明王は、真田昌幸公、信繁公、信之公も祈願をしてきた由緒ある霊尊であります。新年の2日は、読経と太鼓、そして法螺貝の法音が響く初祈願に、ぜひお誘いあわせて、ご参拝ください。皆さんで新しい年がよりよい1年であることをお祈りいたします。

日 程：平成30年1月2日(水)  
 時 間：ご祈禱 午前10時～  
 ※終了後は粗酒粗肴をご用意いたします。お車でご参拝の方はご配慮ください。  
 ※初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月29日(金)までに、同封の『初祈願御申込御芳名帳』にてお申込みください。  
 ファックスでも可 Fax：0268-26-1147



**修正会**

新年最初の法要を、修正会と言います。過ぎ去った年の過ちを反省し、新年の初めに正しい行いを、ご本尊様にお誓いする法要です。海禅寺でも年が明けた0時より、本堂・不動堂・聖天堂でお勤めをいたします。どうぞご参拝ください。(申込不要)  
 日 時：平成30年1月1日 午前0時～  
 ※本堂で住職が各家ご先祖の回向法要を、不動堂と聖天堂では副住職が祈願法要をお勤めします。

**予言やさしい仏教の勉強会**

**仏教さんコンニチワ**

昨年開催しました、どなたでも参加できる、やさしい仏教の勉強会です。仏教とは机上で「学ぶ」というより、自分の人生で活かしてこそ、始めて意味を持つものです。この会では、「仏教をする」ことをテーマに、皆さんでその意味を考えていきたいと思います。また数珠の意味や、お焼香の仕方など、仏事に関する素朴な疑問にもお答えしていきたいと思えます。ぜひお気軽にご参加ください。



※1回完結ですので、前回ご参加してない方でも、ご出席いただけます。  
 日 程：平成30年2月17日(土)  
 時 間：午後1時半～午後3時半  
 料 金：200円(お茶・資料代として)  
 申 込：電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

**海禅寺数珠つなぎ**

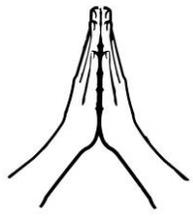
海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

**お檀家 小出秀久さん 4人目**

今回は篤信のお檀家、小出秀久さんです。

**『私と法事』**

先ずは、家族構成から。母82歳 兵庫県在住、私は、3人兄弟の長男です。現在57歳(妻と2人暮らし)横浜在住、姉は(義兄・娘3人)京都市在住、そして弟が(義妹・娘・息子)神戸市在住です。



私共は、幼少時より関西で生活していました。私だけ18歳を機に関東に生活基盤を移し現在に至ります。私と海禅寺さんとのご縁は、30年位前の祖父の法事からだと言っています。お寺と縁があった祖父が、境内墓地にお墓を建てる事となり、ご先祖様を移したところから始まったと聞いた事があります。そして御先祖から父までお世話になっており、今は母が墓を守ってくれています。私もいつかは・・・と思うと、もっとお墓参りに来なくてはいけないなど、思う今日この頃です。若かりし頃は、全くと言って良い程の無関心でした。私が関東で就職した頃、祖父の27回忌法要・祖母の13回忌法要の法事をお寺でしました。この法事が、親元を離れて初めての家族旅行となりました。普段家族同士が、密に連絡を取り合う感じでは無かったため、これが久しぶりに家族全員が集まる機会になりました。そして法要の後、

家族全員で温泉旅行に行く事も楽しみでした。この長野県上田市の近くには、色々な温泉場があり、機会あるたびに、温泉場を選んで旅したのを覚えていきます。

法事と言う名目で有れば、休みも取りやすい様に思いますし、普段、電話では話さない事も家族揃えば、和気藹々と話に花が咲きます。今では家族も増え、甥姪と今流行りの事や、恋話などなどをする事に成長を感じ、嬉しい限りです。法事旅行の度にのんびり温泉に浸かり、美味しい料理を食べながら、一族の大切な時間を過ごしています。

今まで、長男でありながら、自由気ままに生きてきた私ですが、結婚を機に毎年父の命日である12月5日前までに墓参りをする様に心掛けています。そして60歳が近づくにつれ、この墓に自分も入るのかと、胸の奥に深く感じる物が・・・



日本人の平均寿命は男性80歳。そこから見れば、とつくに折り返し地点が過ぎ、平均で言えばあと20年は生きられるはずですが、先の事はどうなるかわかりませんが、これから、どうなる事やら!?こんな私ですが、海禅寺様、今後とも、ご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。

### 寺より

ご法事の度、ご一族で熱心にお参りされる姿が印象的で、今回原稿をお願いしました。ところで数年前のある日の休日、そんな小出家のお墓に、1人の青年がお参りを

している姿に出会いました。声をおかけすると、秀久さんの甥っ子さんとのこと。お聞きすれば受験挑戦の中でご苦労があり、遠方よりその報告を墓参りにしているのだと言います。こうした時期には、青春期ならではの悩みが尽きないものですが、そうしたモヤモヤに対して、ご先祖に手を合わせることを通じて向き合っているその姿に、感動を覚えました。私たちが真摯に祈りをこらせば、「ご先祖」という存在は、今を生きる私たちに様々な気付きをくださるものだと思います。爽やかな笑顔と共に寺を後にした彼の姿から、大切なことを教えてもらったことを思い出しました。

### 告知 バドマサンガ企画

#### しめ飾り作ろう会

かざ



今年もしめ飾りを作る時節となりました。例年通り有志のお檀家さん方を中心にして手作りする会を開催します。新しい年を迎えるにあたり、歳神様の依り代となる大切なしめ飾りです。最近ではホームセンターで、格安の物が簡単に手に入りますが、先人たちに習い、手作りしたものを飾ることで、各家に訪れる福徳はより大きなものとなるでしょう。本年は12月17日(日)より毎日夕方から作り始めます。しめ納め日は26日(火)頃を予定しています。(時間はおおよそ午後6時半〜9時くらいまで。)今年1年を振り返りながら新しい年の吉祥を願い、そしてよもやま話に花を咲かせながらの手仕事は大変に楽しいものです。詳しくは海禅寺にお問い合わせの上、ぜひお気軽にご参加ください。

TEL: 0268-2212972

※会費: 300円(1回分の参加費)

※ご自宅用もお作りいただけます。  
※場所: 上野設備さんの一室をお借りします  
(海禅寺より徒歩3分)

※お車で越しの方は寺の駐車場にお停めください。なお御神酒をお振舞いしますので、お召し上がりの方は、車のご利用を一切ご遠慮ください。

※参加者の都合でお休みの日もございますので、事前に必ずご連絡ください。



### 告知 海禅寺企画

#### 本山参拝・京都七福神まいり

京都へ巡礼の旅に出かけませんか？

総本山智積院を住職が先達のもとに正式参拝し、日本で最古の歴史がある京都七福神を巡拝する企画です。七福神を祀っているのは、それぞれ大変に有名な神社ばかりです。※「えびす神社(恵比寿)」「妙円寺(大黒天)」「東寺(毘沙門天)」「六波羅蜜寺(弁財天)」「赤山禅院(福祿寿)」「行願寺(寿老人)」「萬福寺(布袋尊)」  
海禅寺の檀信徒各位の親睦を深めながら、日常を離れて神仏に手を合わせ、秋の京都を満喫してきたいと思えます。

日程: 平成30年10月28日(日)

29日(月)「一泊二日」

費用: 3万円程度を予定

宿泊: 智積院会館

交通手段: 観光バス  
募集人数: 25名  
お申込み: 電話にてお申込みください  
※より詳しい案内につきましては、追ってお知らせいたします。



海禅寺の門前にある掲示板には、月替わりで皆さんにご紹介したい仏教の言葉や、名言格言を掲示しています。11月に掲示したのは、オーストラリアの先住民、アボリジニに伝わるこんな言葉でした。

私たちは皆、今この時空への訪問者である。全ては来て、過ぎていく。

見、体験し、学び、愛し、

そして源の家へ帰る存在である。

一語一語味わってみると、「私」という存在の命の不思議が見えてきます。そして惜しまれつつも先に逝ってしまった、家族や親類、友人の顔が浮かび、今ある命のかけがえのなさを感ずることができるようになります。

今年も一年が終わろうとしています。再来年度で新しい年号になり、世の中も大きく変わりそうな雰囲気を感じます。しかし社会の大きな変化ばかりに目を奪われ、肝心の自分の足元にある今を見失わないようにしたいものです。

皆様の菩提寺として、来年がよりよい年でありませう、至心にご祈念申し上げます。

発行元 海禅寺

